

# 闇と影のない完全な意識の非局在的光の世界

## -臨死体験の光に関する考察-

齋藤 忠資

臨死体験のコアは、光である。その光は純粹意識（無条件の愛、真の安らぎ、喜び等を備えている）なので、物質の光ではなく、従って肉眼では見えない。その光は、闇と影のない世界を形成していると言われている。物質の光（太陽のような）は影を作るのに、なぜ臨死体験の光は影を作らないのかを考察してみたい。

### ① 光の遍在性と非局在性

物質の光（太陽）は、光を透過させない物体の妨害によって光の届かない所に闇と影を生じるが、臨死体験の光は、至る所に遍在し、光の届かない所はなく、全てに浸透している（非局在性）。すべてに光が遍在しているので、この純粹の光は、闇と影を生じることはない。すべてのものが光によって包まれ、光の愛の絆によって、すべてのものは一つに結ばれている。

代表的な例を挙げよう。

「至る所全てが光であった。光のみが存在していた。放射点もなく、光線というものもない。光はすべてのものを満たし、すべてのものは光であった（私も含めて）。」 1)

「光は至る所にあった。」 2)

「明るく輝く光が、至る所にあった。」 3)

「さんさんと輝く美しい光線の空間だった。すべてが光だった。」 4)

「光がすべてのものに浸透している。草にも光が浸透。木の葉にも光が浸透。」 5)

「それは、地上では見た事もない明るさで、すべてのものに浸透する光であった。」 6)

### ② すべてのものが、光で造られている。

典型的な例を挙げよう。

「光の世界では、すべてのものが光から作られ、光を発していた。この場所のすべてのものと、存在は光から造られていた。すべては光であった。光は生きていた。生きている光がすべてであり、すべてのエッセンスであった。」 7)

「光の世界では、すべてのものは光の異なるニュアンスであり、輝きの違いであった。鳥も花も草の全て明るく輝いていた。すべてのものが光からできていた。私も光から造られていた。」 8)

「私は光からできた物質ではない体を備えていた。すべての人が光からできていた。私は光からできていた。その光は愛を運んでいた。至る所に愛があった。草や鳥や木々から愛が来るようだ。」 9)

「天は安らぎに満ちていた。すべてのものを包み、浸透している光り輝く光の無限の広がり。この光は等しく分布し、力の場によって緩やかに波立っていた。」 10)

「すべての物や存在は、光でできていて別々の物や存在でありながら、一つの大きな光でもあった。私が一番よく覚えているのが光です。それは生きた光で、すべてのもののエッセンスとして存在し、その生きた光がすべてでした。」 1 1)

物質を超えた光自体は非局所的に遍在していたので、すべての方角から照射している。

「光は全方位に放射していて、目で光を遮るものはない。光は引き込む力を持っている。」 1 2)

「至る所に黄金色の光があり、輝いていたが、方向はなかった。」 1 3)

「光は特性の方向から来るのではなく、光自体が方向を含む、方向を具体化する。」 1 4)

③ すべてのものに光が透過しているので、すべてのものは透明であり、すべてのものから光が発しているので、闇と影が生じることはない。それに対して、物質の光の場合には、恒星（太陽のような）以外の星は光源（恒星）の光を反射しているだけで、光が透過していないので、透明ではなく、また自ら光を発している訳ではないので、闇と影を作る。

④ すべてのものの代表的な例

「すべてのもの（人々・花・草）から光と色が放射していた。」 1 5)

「光は物を通して照らす（人々・木・草）。」 1 6)

「光自体は見なかった。光がすべてのものから放射していた。そこは光の世界であった。」 1 7)

「そこは光の世界で、太陽はなかった。すべてのものから光が発していて、光が至る所に遍在していた。」 1 8)

「私の周りのすべてのものから、光が放射していた。」 1 9)

⑤ 光の人物の代表的な例

「光は至る所にあった。光は私を浸透した。光は私の手に浸透し、私の手は透明であった。」

「私の片手は透明で、チラチラ光り流動性をもって動いた。私の胸もまた透明で、その風の中で繊細な絹のような流れを持っていた。」 2 1)

「私を光は透過した。私の手は透明だった。」 2 2)

「手を見ると、手は透明だった。」 2 3)

「天界の人々は透明で、彼らを通して先が見えた。」 2 4)

「私は腕と手を備えていたが、腕と手を通して見る事ができた。私の体は光で満たされていた。」 2 5)

「光の中に女性の姿を見た。彼女の体は内側から輝いていた。天使はまるで光で満たされた純粋なクリスタルの様であった。」 2 6)

「私の両手は透明なゼリー状のようなもので、血のように光が貫通していた。光の血管の中を不規則なパターンで流れるのではなく、光は光線のように私の両手を貫通していた。手全体が光を発していた。両足も光で輝いていた。」 2 7)

「光の人物は、エネルギーの塊であり、光を発している。」 2 8)

「トンネルを出ると沢山の人が待っていた。皆ランプみたいに内側から光っていた。あそ

こにあるものは全部、光は一杯に詰まっているみたいだった。」 29)

「人々は自分で光を発していた。」 30)

「私の霊からは、輝く穏やかな白い光輪が発散されていた。」 31)

「私の霊体の周りには、光り輝く光線があった。」 32) これはオーラのことであろう。

「光の人物は内部から輝いていた。光の人物は絶妙に放射するハローという仕方で広がる、輝くオーラを備えていた。」 33)

「私は片手を見た。手の周りにはオーラがあった。それは地上の手と同じではなく、形を備えたエネルギー場であった。」 34) ここでは、光の人物はエネルギー場としてのオーラを放っていることを示している。

「私は両手を見ると、両手は白く燃えて輝き、私は自ら発するエネルギーを感じた。それは私の体の全ての部分から発していた。」 35)

「そこで会った人々は、自ら光を放射していた。」 36)

「私の霊の体は、光によって浸透されていた。」 37)

◎光の人物以外の典型的な例

「大聖堂はすべて水晶のようなものからできており、内側からこうこうと明かりに照らされて光り輝いていた。大きなガラスの塊で作られたその壁は、内側から光り輝いていた。」 38)

「その町では、輝きは壁や道路やそこにある生命体から発していた。」 39)

「光の世界では、その構成物は内部から輝きを発している。」 40)

「その町は、自ら発する光を備えていた。」 41)

「黄金と銀の光が発するセンターを持つ正方形のブロックから作られた大聖堂と見える建物があった。ブロックは透明で、中まで見える。」 42)

「建物内部から発する光は、すべてのものを照らし輝かせ、そこから愛が感じられた。」 43) この例は、光が物質の光ではなく、精神的な光であることを示している。

「真珠の光沢を持つ建物から、波状に光が放射していた。」 44)

「草・花・丘・青い空から、まるでそれ自体の内部から光を発しているかのようにであった。」 45)

「町々は、自ら光り輝いていた。」 46)

「光の世界では、空も建物もガラスもすべてが、自ら光を発していた。」 47)

「光の世界では、水と植物も内部から光を発していた。」 48)

「花と虹がある美しい場所に私はいた。そこには何もかもが真っ白で、まるで一つ一つのものが光を発しているみたいだった。」 49)

「トンネルの壁の中の窓から、美しい花・川・湖・雲・うねる丘が見えた。すべてが自分で光を放っていた。」 50)

「光の野原には、宝石の石から作られたものがあり、独自の光でもって輝いていた。光そのものが石の中に浸透していた。石は内部にある光を高めていた。」 51)

「大きな石の作り物があり、それは光からできていて、キラキラと輝いていた。」 5 2)

④ それは反射光ではない。

物質界では、通常の物体は太陽のような局在化された光源から放射された光を反射して、光っているだけで、自から光を発している訳ではない。すでに指摘したように、臨死体験の光の世界では、太陽のような局在化された光源ではなく、すべてのものが自ら光を発しているので、光源からの反射光ではない。代表的な例を挙げよう。

「光の世界では、すべてのものが、非物質的なものから造られているので、建物などは、光を反射することはない。」 5 3)

「すべてのものが、光を反射しているのではなく、自ら光を発していた。」 5 4)

「光の町の輝きは、太陽の光線の反射ではない。」 5 5)

「どの生きているものの内部にも、白熱の輝くソフトな光を見た。それは外部の光源から反射された光ではなかった。それはこの花の中心から発していた。」 5 6)

⑤ 光の人物の白衣は白光からできている。

光の人物は白衣を着ている。それは病院の医師や看護師が着ている白衣から投影されたものではない。1例挙げると、「私は純粋で白い絹のガウンを着ていた。それは病院の白衣ではない。私は病院の白衣を体外離脱中に見た。」 5 7) 光の人格体が着ている白衣は、光からできていると言われている。光の世界では、すべてのものは光からできていると言われている。典型的な例を引用しよう。

「私は白くて長い上着を着ていた。それは光からできていた。」 5 8)

「光の人物の白衣は、光によって織られた織物である。」 5 9)

「光の中心の人物は、まぶしい白衣をまとっていた。その白衣は人間の織ったものではなく、光の衣服の様であった。」 6 0)

「光の体は光によって、衣服をまとっている。」 6 1)

「イエス自身とその衣服は、光からできているようだ。」 6 2)

「私は白くて長いガウンを着ていた。それは多くのソフトで淡い色でチラチラ光っていた。私の周りの光はその白い光と反射していた。」 6 3)

⑥ 光の人物は闇でも見える。

肉体から解放された自己のコアは、物質の明かりのない暗闇でも、周りの様子が正確に見えると言われている。夢の場合も、明かりがなくても見えるが、シーンが現実のものと全く同じで正確な体外離脱の事例の場合は、夢では説明できない。この謎を解明できる可能性は、肉体を超えた自己のコアは、光の存在になっているので、自ら光をオーラのように放射して、周りを照らしているというものである。「霊体は内部で輝く白い光であり、私の周りに約3フィート広がっていた。その内部の白い光が、部屋全体を明るく照らしていた。」 6 4)

「私は光であったので、暗いトンネル内でも見えた。」 6 5)

⑦ 光の人格体の顔は見えない。

臨死体験では、光の人物の顔が見えなかったという例が多い。1例だけ挙げると、「光の人物の顔を見ることは出来なかった。」(66) 光の人格体からの顔から特に強い光が発しているとするれば、顔が見えないであろう。1例だけ引用すると、「その女性の顔から光が発していた。とても輝いていたので、その顔は見えなかった。」(67)

⑧ 光源(太陽)は存在しない。

臨死体験では、光は至る所に遍在していて、時間と空間の制約がなく、非局在的であり、無形である。太陽のような光源はないと言われている。光源があればその光は空間上制約があり、局在化しているということになる。これに対して物質の光は太陽のように、光源が局在化し、空間と時間によって制約されている。空間的には、形・場所(位置)・大きさ・方位が定まり、時間的には、誕生・成長・老化・死プロセスが定まる。代表的な例を挙げよう。

「太陽はなく、至る所から光が放射されている。」(68)

「光は至る所にあつたが、光源を持っていなかった。」(69)

「太陽を見た覚えはない。」(70)

「太陽は見なかった。」(71)

「光源は見なかった。」(72)

「光にはどこにも中心がなかった。」(73)

「光の定まった源はなく、すべての空間が光だった。」(74)

「太陽はなく、ランプもなく、光を放つものはなかった。」(75)

至る所に輝くソフトな白い光があつた。しかし太陽とかエネルギー源のようなものはなかった。(76)

「光は源から来るのではなく、光自体が源である。」(77)

本来の光の世界は、バリアを超えた所にあり、この完全な光が、物質界との関係をまだ断ち切っていない臨死体験者と共同して、ホログラム的なパラダイムの世界を作っているものと考えられる。

⑨ 闇と影のない完全な光の世界

すでに考察したように、臨死体験の光の世界では、光は物質ではないので、空間の制約なしに非局在的に遍在し、すべてのものに光が浸透し透過しているので、すべてのものは透明であり、すべてのものが自ら光を放っているので、闇と影というものは存在しない。光には欠けている所はない。その意味でそれは完全な光である。それに対して物質界では、太陽のように光源が時間と空間の制約によって局在化し(位置・形・大きさ・方位が定まる)、光源ではない局在化した物体は、光を反射して光るので、光を透過しない物体は影を作るし、光が届かない所には闇と影ができる。典型的な例を引用しよう。

「光について言えば実際の話、あれは光というより、闇の不在だった。それ自体が満ちたり、完全だった。光という物体に投げかけられ、影を作り出すものを連想するだろうが、この光に限って言えば、全く闇を欠いていた。周りを光に囲まれていない限り、光は影を

作り出すものだから、こうした概念にはなじみにくいかもしれない。しかしこの光この光はそれ自体で満ちたり、完全であるため、人は光を見るのではなく、そのまま光の中にいるのだ。」 78) この例では完全な光には、闇が欠如していると言われている点と、光を見るということは、外部の物質の光を目でとらえるということであるが、物質ではない光は、臨死体験者自身の自己コアを満たしている点に注意しなければならない。

「そこには純粋な光が至る所にあり、闇も影もなかった。」 79)

「その光は明るく黄金色に輝いていて、地上の光と違って、目を傷めることも影を作ることもしなかった。他の次元には影はない。」 80)

「光の世界では、明るい光が隅々にまで届き、影は全くなく何もかもが輝いていた。全く影を落とさない光だった。両手で小さなお椀を作って見て気付いたが、手のひらの側も手の甲の側も同じように明るいのだ。」 81) この例は、すべてのものに光が浸透し、すべてのものが透明であることを示している。

「私は私であったが、光との分離感はなかった。腕があるのに気付いた。飛んだ時、影ができると思ったが、影はなく、いたるところに光が輝いていた。」 82) この例は、光と臨死体験者が一体であることを示している。

「その光の世界には影はなかった。」 83)

「その光がすべてものを包んでいて、影はなかった。」 84)

「トンネルの先の広大な野原には、影はなかった。光は至る所にあった。すべてのものが完全にはっきりと見えた。」 85)

「全方位から光が来た。至る所が光で照らされていた。影はなかった。光はすべてのものに行き渡っていた。」 86)

「光は至る所にあまねく行き渡っているのだから、光の世界には暗闇の領域はない。」 87)

「光の世界の門の背後には、闇があると予想していたが、輝く光以外には何もなかった。」 88)

「光は病院の部屋の中のすべてのものを照らしていたが、影はなかった。」 89) この例では、非物質的な光は、通常の物体を透過し、影を作らないと言われている。従って、この完全な意識光は、物体を通り抜けするものと考えられる(光の存在や、霊の存在のように)

以上の考察によって、闇と影は光が欠如している状態であって、それ自体は光と同等の実在ではないということが分かる。光が行き届かない所のない世界であり、光がすべてに行き届き遍在していて、時間と空間の制約なしに、光が非局在している世界ということであり、その意味で完全な光の世界であるといえよう。それに対して、物質の世界では闇と影という光の欠如状態があり、物質の光は、太陽のように時間と空間によって制約され、局在化されており、その意味で不完全な光の世界といえよう。完全な光には、無条件の完全な愛(受容)と完全な真の安らぎ(ホーム)と完全な喜びと完全な美(特に色と音楽)と完全な意識、完全な知覚、完全な情報、完全な調和と完全な安全性等備わっている。それに対して物質の光には、上記のいずれの性質も欠如しているという意味でも不完全であ

る。物質の光は、物質である肉体のみに関わる。完全な意識での光は、臨死体験者の自己意識のエッセンス（I am）のみに関わる。物質の純粹の意識の光である。臨死体験者の自己意識のエッセンスは、純粹意識の光のみに関わり、物質の光に関わらないことは確かである。人間の心が求めている無条件の慈しみと真の安らぎと喜びと意味等は、完全意識である光のみに存在して、物質の光には存在しない。その意味で人間は神を見い出すまでは、真の安らぎを得ることはない（アクグコチヌス）。それは、人はパンのみで生きるものではないからである（マタイによる福音）。イエスも肉体の渇きを満たすが、すぐに喉が渇いてしまう。物質の水ではなく、二度と渇くことのない霊の水を求めよと言っている（ヨハネの福音書、4:1～15）。物質の光は、完全な光（コヒーレンズ）がデヒーレンスしたものであり、人間の肉体意識は、光の完全な意識を不完全な仕方でも反映・投影したものに過ぎない。

#### 【註】

- 1) [www.nderf.org/maria-r's-nde.htm](http://www.nderf.org/maria-r's-nde.htm)
- 2) B.Malz, My Glimpse of Eternity, Chosen Book, 1977, 85,; [www.nderf.org/Anthony-n's-nde.htm](http://www.nderf.org/Anthony-n's-nde.htm)
- 3) [www.nderf.org/brandelyn-w's-nde.htm](http://www.nderf.org/brandelyn-w's-nde.htm)
- 4) I.カリー、あなたは死なない、PHP 研究所、1998, 237
- 5) K.Ring & S.Cooper, Mindsight, W.James Center for Consciousness Studies, 1999, 32
- 6) J.Michels, Berichte von der Jenseitsschwelle, Goldmann Arkana, 2008, 27
- 7) [www.nderf.org/lisa's-nde.htm](http://www.nderf.org/lisa's-nde.htm)
- 8) Vital Signs, vol.13, no2, spring, 1994.6
- 9) K.Ring & S.Cooper, Mindsight, 24.26
- 10) R.Kruger, A Higher Good, Publish America, 2005, 23
- 11) [www.nderf.org/lisa's-nde.htm](http://www.nderf.org/lisa's-nde.htm)
- 12) Cap.Dale Black, Flight to Heaven, Bethany House, 2010, 100
- 13) [www.nderf.org/joseph-m's-nde.htm](http://www.nderf.org/joseph-m's-nde.htm)
- 14) J.Macartney, Crisis to Creation, Book Publishers Network, 2010, 199
- 15) [www.nderf.org/alejandre-m's-nde.htm](http://www.nderf.org/alejandre-m's-nde.htm)
- 16) Cap.Dale Black, Flight, 100
- 17) [www.nderf.org/diona-r-nde.htm](http://www.nderf.org/diona-r-nde.htm)
- 18) D.Goble, [www.Beyoudtheveil.net](http://www.Beyoudtheveil.net)
- 19) [www.nderf.org/jesse-n's-nde.htm](http://www.nderf.org/jesse-n's-nde.htm)
- 20) [www.nderf.org/derry-b-nde.htm](http://www.nderf.org/derry-b-nde.htm)
- 21) D.Brinkley, Saved by the Light, Villard, 1994.9
- 22) [www.nderf.org/derry's-nde.htm](http://www.nderf.org/derry's-nde.htm)

- 23) [www.nderf.org/tom-n-nde.htm](http://www.nderf.org/tom-n-nde.htm)
- 24) R.Bennett, To Heaven and Back, Zonderran Publishing House, 1997, 61
- 25) [www.aglimseofeternity.org/testimony.doc](http://www.aglimseofeternity.org/testimony.doc).
- 26) C.R.Lundall & H.A.Wiiddison, The Eternal Journey, Warner Books, 1997, 201
- 27) R.Wallace, The Burning Within, Gold Leaf Press, 1994, 99
- 28) A.フェニモア、地獄の情景、同朋社出版、1995.182
- 29) M.モース、臨死からの帰還、徳間書店、1993,6
- 30) S.L.Menet, There is no Death, Moutain Top Publishing, 2002, 39
- 31) P.M.H.Atwater, 光の彼方へ、ソニーマガジン、1995,18
- 32) A.S.Gibson, Journeys Beyond Life, Horizon, 1994, 136
- 33) N.L.Danison, Backwardes, APLee & Co., 2007, 240
- 34) A.S.Gibson, Glimpses of Eternity, Horizon, 1992, 228
- 35) C. R.Lundahl & H.A.Widdison, Journey, 108
- 36) [www.nderf.org/hafur-nde.htm](http://www.nderf.org/hafur-nde.htm)
- 37) J.Michels, Berichte , 29
- 38) D.ブリンクリー、未来からの帰還、同朋舎出版、1994,43
- 39) C. R.Lundahl & H.A.Widdison, Journey, 155
- 40) D.Goble, [www.beyondtheveil.net](http://www.beyondtheveil.net)
- 41) C.R.Lundahl & H.A.Widdison, Journey, 154
- 42) 同上書、161
- 43) D.ブリンクリー、未来、44
- 44) L.E.Tooley, I Saw Heaven, Horizon Publisher's & Distributers, 1997, 88
- 45) [www.nderf.org/joyce-h's-nde.htm](http://www.nderf.org/joyce-h's-nde.htm)
- 46) S.L.Menet, Death, 34
- 47) P.M.H.Atwater, Children of the New Millenium, Three Rivers Press, 1999, 61
- 48) [www.nderf.org/derry's-nde.htm](http://www.nderf.org/derry's-nde.htm)
- 49) M.Morse, Closer to the Light, Billard Books, 1990, 31
- 50) Vital Signs, vol.21, no2, 17
- 51) K.Ring & S.Cooper, Mindsight, 68
- 52) 同上書、33
- 53) G.Ritchie, Return from Tomorrow, Fleming H.Revell, 1978, 59
- 54) [www.org/joyce-h's-nde.htm](http://www.org/joyce-h's-nde.htm)
- 55) C.R.Lundahl & H.A.Widdison, Journey, 154
- 56) [www.near-death.com/j.smitk.htm](http://www.near-death.com/j.smitk.htm)
- 57) [www.nderf.org/karal-s's-nde.htm](http://www.nderf.org/karal-s's-nde.htm)
- 58) [www.ndeweb.com/no155](http://www.ndeweb.com/no155)



- 59) [www.near-death.com/dr.R.Turner.html](http://www.near-death.com/dr.R.Turner.html)
- 60) [www.aglimpseofeternity.org/testimony.doc](http://www.aglimpseofeternity.org/testimony.doc).
- 61) [www.nderf.org/anne-s-nde.htm](http://www.nderf.org/anne-s-nde.htm)
- 62) S.L.Menet, Death, 48
- 63) E.Durham, I Stand All Amazed, Granite, 1998, 19
- 64) D.Morrissey, You Can See the Light, Stillprint Publishing, 1977, 22~23
- 65) T.Cohen, The Day I Died, John Blake, 2006, 140; H.Hone, The Light at the End of the Tunnel, American Bio Center, 1986, 22
- 66) [www.nderf.org/joyce-h's-nde.htm](http://www.nderf.org/joyce-h's-nde.htm)
- 67) [www.nderf.org/michael-d's-nde.htm](http://www.nderf.org/michael-d's-nde.htm)
- 68) [www.nderf.org/alejandro-m's-nde.htm](http://www.nderf.org/alejandro-m's-nde.htm)
- 69) [www.nderf.org/joseph-m's-nde.htm](http://www.nderf.org/joseph-m's-nde.htm)
- 70) [www.near-death.com/j.smith.html](http://www.near-death.com/j.smith.html)
- 71) [www.nderf.org/slaine-g's-nde.htm](http://www.nderf.org/slaine-g's-nde.htm); [www.nderf.org/anthany-n's.htm](http://www.nderf.org/anthany-n's.htm); 木内鶴彦、宇宙の記憶、龍鳳書店、1995, 32
- 72) [www.nderf.org/brandelyn-w's-nde.htm](http://www.nderf.org/brandelyn-w's-nde.htm)
- 73) K.Ring, Life at Death, Coward, McLann & Geoghegan, 1980, 59
- 74) [www.nderf.org/stephen-c-nde.htm](http://www.nderf.org/stephen-c-nde.htm)
- 75) <http://bibleprobe.com/boris-pilichuke.htm>
- 76) B.J.Ramsey, Power for Living, Publish America, 2007, 11
- 77) J.Mcartney, Crisis, 199
- 78) M.セイボム、あの世からの帰還、日本教文社、1986, 70~71
- 79) [www.aglimpseofeternity.org/testimony.htm](http://www.aglimpseofeternity.org/testimony.htm)
- 80) [www.oberf.org/jo-a's-experience.htm](http://www.oberf.org/jo-a's-experience.htm)
- 81) M.モース、帰還、1993, 118
- 82) P.M.H.Atwater, Millenium, 133
- 83) [www.nderf.org/jack-c's-porobable-nde.htm](http://www.nderf.org/jack-c's-porobable-nde.htm)
- 84) K.Ring & S.Cooper, near-death and out of bodt experiences in the blind, JNDS16, 1997, 113
- 85) K.Ring & S.Cooper, Mindsight, 67
- 86) 同上書、31~32
- 87) C.R.Lundahl & H.A.Widdison, Journey, 170
- 88) D.Piper, 90 Minutes in Heaven, Revell, 2004, 28
- 89) M.Morse, Closer, 121

